

## 令和7年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 106  
 学校名 愛知県立 岩津 高等学校  
 校長氏名 麻生 和男

|               |   |                |
|---------------|---|----------------|
| 研究責任者職・氏名     | 教諭・鈴木倫史   |                |
| 研究テーマ         | ICT機器の活用による、自ら学ぶ姿勢の育成を目指す授業づくり  |                |
| 本年度の研究目標      | (1) ICT機器を活用した授業展開の研究と実践<br>(2) 課題を進めるうえでのICT機器の利用の工夫と学習効果                                    |                |
| 研究の実施内容       |   |                |
| 実施月日          | 内 容   | 備 考<br>(対象生徒等) |
| 令和7年<br>4月18日 | ○第1回あいちラーニング推進委員会（教科主任会にて実施）<br>・課題整理、今年度の計画の概要について<br>・各教科におけるICT機器を使用しての授業の実施状況の確認を行った。     | 担当職員           |
| 5月13日         | ○あいちラーニング推進事業第1回連絡協議会（岡崎北高校）<br>・研究計画についての進め方、情報交換を行った。                                       | 担当職員           |
| 6月12日         | ○公開授業<br>・中学校の教員、中学3年生および在校生の保護者、各企業の人事担当者対象<br>・ICT機器を利用している授業を参観していただいた。                    | 全教職員           |
| 8月1日          | ○現職研修（ICT支援員による研修）<br>・Microsoft Teams 課題機能 初級<br>・課題配信、提出、提出状況の確認など基本機能の利用方法を主として講義をしていただいた。 | 全教職員           |
| 9月5日          | ○第2回あいちラーニング推進委員会（教科主任会にて実施）<br>・課題整理、公開授業に向けての準備などについて                                       | 関係職員           |
| 10月29日        | ○ICT教育推進に係る学校訪問（ICT教育推進課）   | 関係職員           |
| 11月7日         | ○授業公開<br>・数学、理科において、ICT機器を活用した授業を公開<br>・主管校担当者に参加していただき研究協議で指導・助言をいただいた。                      | 担当職員           |

|       |  |      |
|-------|--|------|
| 令和8年  |  |      |
| 1月9日  | ○第3回あいちラーニング推進委員会（教科主任会にて実施）<br>・研究報告書の素案を提示し、内容の検討を行った。 | 担当職員 |
| 1月27日 | ○あいちラーニング推進事業第2回連絡協議会（岡崎北高校）<br>・研究成果の報告、情報交換を行った。       | 担当職員 |
| 3月下旬  | ○研究報告書を本校Webページにて公開する。                                   |      |

### 研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

- 1 本校におけるICT機器を活用状況  
多くの先生がプロジェクターを利用し、教科書を補うための資料を提示しながら授業を進めている。また、一人1台PCを利用することで、必要事項や関連資料の検索などに利用している。
- 2 公開授業の活用と成果  
11月7日の授業公開は、数学科・理科学科で実施した。主管校の先生を中心に参加してもらった。数学の研究授業では、数学Ⅰの三角関数について、角 $\theta$  ( $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ ) 範囲で変化した場合に、 $\sin\theta \cdot \cos\theta \cdot \tan\theta$  がどのように変化していくかタブレットを通して学んだ。グループ学習をすることで、その変化について様々な意見が出た。また、理科の研究授業では化学基礎の滴定曲線について学んだ。前回までに行った中和滴定をもとに、水素イオン濃度 $[H^+]$ と水酸化物イオン濃度 $[OH^-]$ の変化について、表計算ソフトを用いてグラフ化した。セル内に数式を入力することで、計算結果を可視化することで、 $pH=7$ で起こる $pH$ ジャンプ、使用する溶液に適した指示薬の変色域を重ねたりし、教科書や副教材に掲載されている図で学ぶ以上のことを身につけた。  
研究授業終了後の研究協議では、授業のねらいと利用することの効果、実施前後での生徒の変容などを説明した。その後の質疑応答では、より効果的な利用方法や生徒がICT機器を活用しやすい場面などについて議論が活発となった。また、他校での活用事例を学ぶことができ、とても有意義な公開授業となり、本校職員、生徒への還元をする必要性を感じた。
- 3 事業の成果と今後の課題  
本事業を通じて、各教科においてICT機器を活用した授業を積極的に展開する機会となった。生徒がICT機器を利用する際には、課題の設定、目標などを丁寧に説明し、ワークシートなどを活用することで一定の効果があったと考えられる。また、Microsoft Teamsを利用した課題配信、回収などについては、家庭科を中心に課題の提出などで利用されている。また、授業ではないが、今年度から就職用の履歴書のワープロソフトの利用可となったことで、本校では進路指導部が中心となり、就職希望者への履歴書作成時に、履歴書の添削指導、提出などにTeamsを利用することで、昨年度よりもスムーズに行うことができた。  
授業でICT機器を利用することは重要であるが、それ以外の場面においてもICT機器を利用することで、より効率的になることが分かった。  
今後は、デジタル採点による定期考査の採点結果のデジタル返却など、授業以外の場面でのICT機器の活用を進めていくことで、教育活動を効率的に行うことができると考える。その結果生じた時間を教材研究の充実などに用いることができることは、生徒、教員双方にとって効果的であると考えられる。また、生徒の学びに対する姿勢や、理解度などの変容を見極めつつ、より積極的にICT機器を活用していきたいと考える。

※ 本研究報告書は、令和8年3月13日までに当該地区の主管校に提出する。

※ 名古屋地区においては、旭丘高校、千種高校、城北つばさ高校は瑞陵高校へ、明和高校、中川青和高校は名古屋西高校へ提出する。